

せわやがトカラ情報

発行元 十島村教育委員会

一隅を照らす十島の教育

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

六月…無名有力



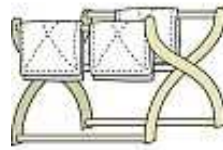
十島村教育長 原口 英典



十島村教育委員会に勤務させていただくようになって、今日は1年6か月目という日であった。

勤め始めたある日の朝から、毎朝Aさんという人と出会っている。気が付くとAさんの姿に出会うのを楽しみにしている自分がいた。

Aさんは、ある会社の警備員だという。その会社の何十台という車とその駐車場の管理と警備を行っているという。毎朝、そのAさんの仕事場の前を通るに、車が突に整然と駐車されている。併せて、通りすがりのその時間帯に、Aさんは、春夏秋冬問わず、ただ黙々と仕事場の周辺に水をまき、ブラシで磨き、ごみがあれば拾っておられる。あるとき、偶然にAさんと間近に接するときがあり、声を掛けた。Aさん曰く「ここがこの会社の顔だと思っています。会社の顔は、売り場や店の内部だと思っている人が多いと思いますが、雑になりがちなこういうところを大事にする会社だ、とお客さんに思っただけであればありがたいです。」見ると、仕事道具の水道のホースは、絡まることなく、それはそれは美しく巻いてある。ブラシや雑巾もまっすぐに掛けてある。それは、まさに、その人の心がけ(生き方)そのままを巻いたり、掛けたりしてあるのであった。仕事を始める前提条件として、まずは「心の仕込み」ができて



いる姿であった。その行為を毎朝観るにつけ、私は、Aさんの姿そのものによって、自分自身の心に灯をともしさせていただいてるのに気付かされるのであった。

我が十島村の学校に、教育の根っことして、頑として、掃除、あいさつ、授業態度、宿題を徹底させている先生がいる。このような先生は、時にはうとうとうしい存在に映るかもしれないが、人が人を大事にする、自分が自分を大事にする根幹は、ここらあたりから根を張りだしていくのではなからうか。そのことが、本物の学力形成にもつながっていく。

そのような無名有力の生き方を目指す先生方の宝庫として、ここ十島村の先生方は、今日もまた子ども等とともに、ただにがんばっている。



たゆまざる 歩みおそろし かつむり(北村西望)

【十島村小学校連合交流学習】 出会いを求めて



(八幡小の正門に掲げられた歓迎横断幕)

6月19日(水)のフェリーとしまで、小学5・6年生16名、引率の先生9名が鹿児島県にやってきました。20日は、鹿児島市の八幡小(776人)の皆さんと交流を深め、21日は日頃体験することのできない「科学館」などの施設での意義ある体験をしました。



シリーズ 十島の学校にやってきて 宝島中学校3年 原ノ園 優汰

僕は、宝島に来る前は、ほとんど勉強もせずダラダラと過ごしていました。中学2年生の後半に、「このままじゃ高校に進学できない」と思い、高校に進学するために宝島に来ました。

最初は、1対1の授業できつかったのですが、今まで勉強をまじめにしていなかったことを反省しました。宿題もとても多いと感じました。以前は、さぼってもいいやと甘い考えで宿題をやらない時もありました。しかし、今では1対1で授業ができるので、苦手な数学や英語がだんだん分かるようになってきました。宿題にもやる気が湧いてきて、ほとんど忘れなくなりました。まだまだ勉強不足ですが、高校に進学するために宝島に来たということをお忘れず、志望校合格に向けて日々頑張ろうと思います。



勉強も頑張りますが、せっかく宝島に来たので、綺麗な海で泳いだり、釣りをしたりして、自然も満喫したいと思っています。そして卒業する時には、宝島に来て良かったと言えるように感動の多い一年にしたいです。



シリーズ 山海留学生として学ぶ 小島島での2年間を振り返って - その2 滝本 渉 現在大学2年生<神奈川県>

学習面では、人数が少ないことが却ってプラスになっていたように思います。中学2年生の時は、同学年は私を含め3人、中学3年生の時は、私しかいないという状況でしたので、マンツーマンかそれに近い状態での指導

が基本となっていました。このような状況での学習は、非常に効果的なものであったように思います。

振り返ってみると小島島で過ごした2年間は、やはり非常に良い経験だったように思います。神奈川にいた時には予想もしていなかったようなことが、マイナス面プラス面共に多くありました。現在、私は都内の大学に通っていますが、この2年間は、私の現在の生活に少なからず影響を及ぼしていることはほぼ間違いのないでしょう。今後も、小島島、ひいては十島村がよりよい形で続いていってほしいと思います。

【子どもたちの作品】 (南日本新聞「子供のうた」H25.3.19)

桜の花びらたち 口之島中学校1年 山元 悠希

ぼくらはおどる 風につられておどる
花びらは全部ぼくの兄弟さ
兄弟みんな美しくおどってる
でもぼくにも悩みはあるよ
だってぼくらは 一年中輝けない
人間みたいに一年中輝きたい
ああ人間に生まれ変わりたいな



冬と春と心 (南日本新聞「子供のうた」H25.2.9)

宝島中学校小島島分校 中学1年生 森 祐太



冬が来るとぼくの心は冷たくなる
必ず別れがあるからだ
でも春が来るとぼくの心はあったかくなる
必ず新しい出会いがあるからだ
ぼくの心は季節によってあったかくなったり
冷たくなったりする
はだで温度を感じるものだけ
心でも感じているのかなあ



ありがとうの気持ち (南日本新聞「若い目」H25.3.14)

宝島小学校小島島分校 5年生 東 真優

「これから半成人式を行います」という司会者の言葉で始まった小島島分校の半成人式。小中合わせて11人しかいない私の学校では、全児童生徒、先生方、お父さん、お母さん、地域の方が、みんなで4年生の二人を祝ってくれました。

たくさんの人たちが教室に集まったので、私は顔が真っ赤になるくらいきんちょうしました。たんにんの先生があいさつをされた後、私は生まれてから10年間のあゆみを年表にまとめて発表しました。

今まで練習をたくさんしてきたので自信があったけれど、実さいにみんなの前で発表すると声がふるえるくらいきんちょうしました。



式の中で一番心に残ったのは、お父さんとお母さんからの手紙でした。お母さんは手紙を読むとき、泣いて手もふるえていましたが、一生けん命読んでくれたので、うれしかったです。それを見て、私も、なみだ目になりました。

次に、私が両親に書いた手紙を読みました。ふだん言えない両親への感謝の気持ちと、これからがんばりたいことや、しょう来のゆめをみんなの前で発表しました。みんなに祝っていただき、思い出に残る半成人式になりました。

十島村の小・中学校からのメッセージ

悪石島中学校 教諭 鶴長 隆盛

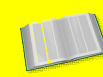
採用される前、大学生の頃から、私は離島への赴任を希望していました。しかし、初任者としては、当時県内で生徒数1、2位を争うマンモス校へ配置されることになりました。その後も巡り合わせが上手くいかず、4校目にして、ようやく十島村立悪石島中学校へ赴任することができました。

さて、実際に赴任してみると、専門教科外の指導をしたり、校務の分担が増えたりする分、なかなか濃密です。特に教科指導に関しては、かなりのやりがいを感じます。私の専門教科は国語ですが、赴任3年目にして、社会、音楽、保健体育、美術、技術の臨時免許を取得するに至っています。そのおかげで、国語科とその他の教科の関連、国語科の果たすべき役割や位置付けなど、これまでと違った視点で国語科のことを考えることができるようになりました。

生徒指導においては、生徒数が極少数になった分、生徒一人一人との関わりが増えました。また、小中併設校ゆえ、小学生との関わりも私にとっては新鮮で、これまでの指導を見直すよい契機になったと思っています。

生活の面では、もともと自宅と学校の往復、土日も部活ばかりの暮らしでしたので、さして変化はありません。買い物も昔から通販ばかりで、この点で困ったと思ったことはないです。強いて言うなら、通勤途中にコンビニに寄ることがなくなったぐらいでしょうか。ただ、船便の関係で、急ぎの用があっても、どうしようもできないことがあります。

赴任して、一番よかったと思えることは、家族と過ごす時間が増えたことです。これまでは、週末も部活の遠征や研究会等への出席がほとんどでした。そのため、休みの日でも家族と一緒にいる時間は少なく、当然、子供の学校行事に参加することもほとんどありませんでした。それが、悪石島に来てからは完全に逆転し、家庭で過ごす時間ももちろん、学校行事や地域行事でも一緒にいられます。



教職員仲間である「あなた」へのメッセージ



お店がない、週2~3便しか船がないといった話をすると、ただ不便というだけで敬遠される方がいます。そんなとき、とても残念で悲しい気持ちになります。生活に関しては、人によっては不便を感じるかもしれません。しかし、小さな島にも、少ない人数ですが、子供たちがいるということを忘れないでほしいです。